

行ってきました！スノーフェスティバル2010



2月19日～21日、私たちが日韓国青年同盟は、長野県・北志賀高原／竜王スキー場にて『第46回韓青全国冬期講習会～スノーフェスティバル2010』（以下、SF）を開催し、日本各地からたくさんの同胞青年が参加しました。

また今回のSFでは、秋に組織結成50年の節目を迎えることをふまえて『韓青誕生50年！祖国とともに！民族とともに！』をテーマに掲げ、創意工夫をこらした企画をふんだんに準備しました。ここではそのようなSF報告をしたいと思います。

例年と同様、開会式前といえば、どこに座ればいいのか分からない、そんな緊張した雰囲気でしたが、開会式では熱血コーチ・松岡修三をネタにした司会2人によるオープニング、課題曲「하나 되어대행진（一つになって大行進）」を陽気に、そして元気いっぱいに歌って踊ってくれた兵庫県本部のノレ（歌唱）指導で、緊張した空気もすっかり打ち解けました。

また竜王スキー場はゲレンデとしても有名で、標

高2千メートルの頂上からは絶景のパノラマが楽しめました。そんなゲレンデではスキーやスノーボード、そして愛知県本部が準備したゲレンデ企画で大いに盛り上がりました。派手に転がっても痛くないのがゲレンデ企画の魅力ですね。

グループ別・全体講演では、昨今、目立ち始めた“在特会”なる排外主義と祖国の分断をはじめとした社会構造に立ち向かうことの大切さ、それを実践してきた韓青50年の歴史を振り返りながら、在日同胞青年が「民族的に生きる」ことの意味、そのための同胞青年の役割について話されました。班別討論でも活発な意見が飛びかい、「民族的に生きる」ことに真剣に向き合いました。

そしてメインの「韓青文化マダン」では、東京（結成50年をつづる総合芸術）、神奈川（カヤグム）、愛知（結成50年プンムル）、三重（日本と朝鮮の100年を歌った民謡）、京都（光州抗争30年構成劇）、大阪（6・15宣言10年を振り返るアンサンブル）、兵庫（サムルノリ）など、2010年の契機性を活かしたテーマで各本部が創意工夫や情熱あふれた文化発表を披露し、参加者に大きな感動と民族文化の素晴らしさを伝えました。また寸劇では、分断や社会の構造に立ち向かい民族的に生きようという内容が盛り込まれ、参加者の役者顔負けの演技には、会場から大きな笑い拍手が沸き起こっていました。

閉会式ではこの1年の活動を頑張り年末の50周年イベントでの再会を誓い合いました。これで韓青の2009年も幕を閉じました。2010年度も頑張ります！

写真館

スノーフェスティバル

한청전국 2010 동기강습회

Snow Festival 2010



SFを盛りあげたノレ指導



講演「民族的に生きる」



雪上でのゲレンデ企画



室内レクで大ジャンプ?



サムルノリ - 兵庫



カヤグム - 神奈川



民謡 - 三重



アンサンブル - 大阪



優勝した3班の寸劇



プンムル - 愛知



構成劇 - 京都



総合芸術 - 東京

Snow Festival 2010

感想 文集

三重県本部 アン・パッキ

全国規模で開催されるSFには、初参加で初めて見る顔ぶればかりで、地方単位のサマーキャンプとは違って、人数も更に増え、まるまる2泊3日という規模の大きなイベントなので、一人一人の名前や職業、在日として生きていくうえでの考えかたなどを聞いても忘れてしまうだろうなと思いました。

まず1日目の夜の班別討論では、愛知の趙吉春委員長の民族的に生きることの講演での話をテーマに討論をしました。そこで僕が改めて考えさせられたことは、日本で在日朝鮮人として生きていく上で、日本の文化と朝鮮の文化の大切さを両方比較しながら、どこが似ているのか、どこが違うのか、また両者の考え方のどこが違うのか、どこが似ているのか、ということでした。そして、「民族的に生きる＝自分らしく生きる」ということが、僕の中で通名を使って生きていくのではなくて本名で生きていくことなんだということや、自分自身がどのような成り立ちで在日朝鮮人として生きているのかをしっかりと周りの人たちに説明できるようになることであり、またそのために歴史や在日問題をたくさん勉強し、知識を見につけることから始まるんだということだと思い、がんばっていきましょうと思いました。

2日目の夜のメインイベント「韓青文化マダン」では、各地方の発表や各班の寸劇があり、自分もその中で演じていくことに緊張もしていました。三重は今回「歌で綴る 韓日併合100年、在日100年」というタイトルで様々なメッセージソングを民謡っぽくアレンジしながら歌いました。本番で声がしっかりと出るか不安もありましたが、やり終えた後には、周りの人達からお褒めの言葉をたくさんもらって安心した部分もありました。少しミスったかな、と思うところもありましたが、そこは声の大きさと最後の4曲目「統一アリアン」の盛り上がりでカバーできたと思いました。そして、自分の班の寸劇では、まさかの魔女役の主演に抜擢されましたが、恥ずかしさを捨てて演じきりました。他の県の文化発表で一番印象に残ったのは、京都府本部の「光州民衆抗争」を題材にした演劇でした。そのときの情景が何となく想像できて、かつ、臨場感があるのでリアルにその時代にいるような感覚になり、少し感動しました。

今年の韓青50周年の全国の夏期講習会では、もっと勉強してみんなと対等に分かり合えるように、話ができるようになって参加しようと思いました。

炭火焼肉・韓国酒家

ビヤンド

<http://www.biyangdo.com> ~飛楊鳥~

〒108-0014 港区芝5-22-6 TEL 03-3453-2383

☆ご宴会・ご会合に2・3Fのお座敷をご利用ください

(各階40名様まで)

焼肉 晩 翠

ばんすい

〒108-0014 東京都港区芝5-23-10
TEL & FAX 3452-0061

今年の冬期講習会は韓青結成 50 周年を記念する年の最初のイベントであり、東京、神奈川、愛知、三重、京都、大阪、兵庫、広島の八つの地域からたくさんの韓青の同志たちが参加する大きな催しになりました。私は今年が初参加で、全国規模のイベントに参加するのも初めての経験だったのでいろいろと不安がありました。特に班別活動では初めてにもかかわらずBグループの班に入ることになり、内容の深い講演や討論に果たしてついていけるか非常に心配でした。

一日目の夜、文世賢中央委員長による講演では、朝鮮戦争以降の朝鮮半島を取り巻く情勢と、日本で生きる我々が民族的に生きることとの関係が大きなテーマでした。韓青の一員として運動に加わるのに情勢の知識は不可欠だと改めて思いました。講演とその後の班別討論を通して、米国覇権主義と日本の不徹底な戦後保障という二つの大きな問題が今の閉塞的な情勢の根本原因だということを感じるとともに、米国と北朝鮮間の平和条約締結に向けた動きを支持し、日本が戦後保障に積極的に乗り出すよう促していくことの重要性を確認しました。

二日目の朝、朴明哲文教部長による全体講演では、「在特会」の映像など、今日本で加速しつつある排外主義が取り上げられました。このような動きが日本の教育によって誤った歴史認識が広められた結果生まれたものであり、私たちが健全な民族意識を持って生きることを阻んでいる大きな障壁であるということを描き、それを乗り越えるために今我々ができることを、韓青がたどってきた半世紀の軌跡を最後に振り返りながら考えさせられました。

この日の夜の文化マダンでは、各地域の素晴らしい文化発表と、各班による講演や班活動の内容を踏まえてそれぞれユニークな趣向が凝らされた寸劇の発表で大いに盛り上がりました。出演者としても、また観客としても全国の人たちと一体となって楽しい時間を過ごすことができました。

最終日の班活動では、この講習会で学んだことを再確認しながら、それぞれの課題に取り組んでいくことを誓い合いました。自分だけでなく、参加した全ての人にとっても、本当に充実した三日間であったと思います。



韓国語教室
「ムグンファ」

見学・体験レッスン随時受付！

担当：金梨恵 (キム・イハ)
080-6510-1973

韓国語教材専門インターネット書店

ハンゲルの森



Internet Bookstore

한글의 숲

<http://www.rakuten.co.jp/eac-hg/>

東京本部 シン・ウオング

今回、自分は「スノーフェスティバル 2010」で初の副班長として参加させていただきました。最初は、その話を聞いた時はとても驚きました。今回の「スノーフェスティバル 2010」の副班長をやらないかという言葉に僕は一瞬考えてしまいました。何故なら、果たしてこの「スノーフェスティバル 2010」を通して班員の青年のみんなにしっかり民族について語れるのか、伝えることが出来るのか、自分は不安でたまりませんでした。

そんな中で「スノーフェスティバル 2010」の実行委員会では、全国から班長団が名古屋に集まり、そこで班長 副班長と初顔合わせをしました。自分も全国の班長団と顔合わせするのが初めてでしたし、中には知っているメンバーもいれば知らないメンバーもいました。そんな中、自分が班長と初対面した時はちょっと安心しました。何故ならとても朗らかで明るい人だなあと思ったからです。そこでは、第1回目の打ち合わせとして、お互いの自己紹介や自分が思うことなどを話していきました。そうしている間にあっという間に時間が無くなってしまいました。最後は、これから打ち合わせをしていく中で、良い班と班員が思える班を作っていく為に頑張っていこうね～と約束していきました。「スノーフェスティバル 2010」の日が近づくと自分の中で「やるぞ～」という思いと「うまく出来るか」という不安とで緊張感が日に日に増していきました。

そして、とうとうその日がやってきました。はじめは緊張したが、班員のメンバーと話をしていくうちにすぐに打ち解けることができました。また班別討論の時には班員が「民族的に生きる」って事が難しいって考えていたので、その夜に班長と打ち合わせをして、次の討論から近代史（「韓日併合」や日本における私たちの存在）の歴史的背景などの話も入れて班別討論を進めて行こうと話がまとまりました。そして次の班別討論の時には、近代歴史の話から入っていきましたが、時々そこから話が大きくなり脱線したりもしましたが、うちの班では「民族的に生きる」という熱い討論が出来たと思います。

今回「スノーフェスティバル 2010」の副班長として様々な経験ができて、とても貴重な3日間を過ごすことが出来ました。あらためて民族の大切さや幸せを今一度確認できた熱い3日間になりました。そして、同じ班になった皆さんとまた「サマーキャンプ 2010」で会いたいと思います。

韓青 50 周年を応援します！
京都府本部 O G

崔 栄 子

韓青 50 周年を応援します！
東京本部 O G

金 梨 恵



情勢 NEWS

<韓統連の名誉回復が焦点化！>

昨年11月17日、真実・和解のための過去事整理委員会（真実和解委員会・安ビョンウク委員長）は、朴正熙政権時代の1977年に起こった「在日留学生・金整司スパイ事件」に関して、治安当局が不法拘禁と過酷行為によって虚偽に自白させたでっち上げ事件であるとの決定通知書を発表し、金整司氏ら被害当事者や韓統連に通知してきました。

真実和解委員会は2006年10月23日、金整司氏の真実究明申請を受けて、約3年間、被害当事者や韓統連関係者、当時のマスコミ関係者への聞き取り調査や当時の公判記録、証拠物、新聞記事の再検討を総合的に実施、今回発表したのです。

そもそも、この真実和解委員会は盧武鉉政権下において日帝時代の強制連行や強制労働、朝鮮戦争前後の米軍や国軍の民間人虐殺や、解放以後の権力による人権蹂躪、暴力、疑問死事件などを調査して隠ぺいされた真実を明らかにし、過去との和解を通して国民統合を図ることを目的にスタートしました。金整司事件は、在日同胞留学生を不当にスパイ扱いし、さらに裁判の最中に唐突にでてきた「反国家団体である韓民統に所属している・・・」という表現によって、韓民統（現・韓統連）が反国家団体、韓青が利敵団体というレッテルをはられました。以降、韓統連、韓青は韓国政府によって入国拒否などの不当な弾圧を受けることとなったのです。盧武鉉政権下において祖国への自由往来を勝ち取ることができた私たちですが、反民主・反統一的政策を掲げる李明博政権下において、再び死滅しつつあった国家保安法および「反国家団体」規定が息を吹き返し、弾圧が再び起こっているのです。昨年には、韓統連・韓青による代表団が不当に弾圧（孫亨根議長に出頭命令）され、韓青中央本部の文世賢委員長には旅券発給に制限がかけられています。



写真＝旅券発給拒否に抗議する韓統連・韓青

今回の決定通知書では、同事件を治安当局によるでっち上げ事件と規定、李明博政権に①検察は被害者に謝罪し和解するための適切な措置を取ること②被害者の被害と名誉を回復させるために再審などの措置を取ること③具体的な反国家行為や容疑を明らかにすることなく韓民統を反国家団体と規定した間違いを是正することを強く迫っています。

この通知書を受けて、金整司氏は再審の準備に入りましたが、今回の通知書は権力の不当な弾圧を証明する強力な根拠となります。再審を勝利することができれば、韓統連、韓青の名誉回復にも大きな助けとなるでしょう。

また、韓統連はこの事件とは別に、韓統連の反国家団体規定そのものに対しても委員会に調査を依頼しています。李明博政権は、その反民主・反統一的性格により、6月に真相究明委員会の解散を決定しました。そのため、韓統連の反国家団体規定に対する調査結果は6月までに明らかになる可能性が高いと思われます。

韓統連の名誉回復は、国家保安法の撤廃をはじめとした韓国社会の民主化と、祖国統一の進展への重要なステップとなります。また、私たちがより祖国の同胞たちと密接に連帯し、自主・民主・統一運動をより強く、広く展開することができるでしょう。祖国との距離の縮まりは、韓青の青年たちが民族に触れ、学ぶ機会を増やす契機ともなります。私たちは、そのような問題意識をもって今後の裁判闘争や委員会の調査結果に注視しなくてははいけません。

日々是はんちゃん 全国支部紹介

Vol.11 京都府本部右京支部

全国の先輩・先生方、アンニョンハシムニカ？今回の「日々是はんちゃん」は京都府本部右京支部です。若くにぎやかなメンバーががんばっている日常をご紹介します。

◇自慢のウリマル学習会！

私たち右京支部は現在ウリマル（韓国語）教室や歴史学習会などを日常的に開催して、精力的に活動しています。中でもウリマル教室にはすごく力を注いでいます。あらゆる同胞青年のニーズに応えるため、講師がまず日常的なウリマル学習を行い、しっかりと準備をすることで文法や会話などを楽しく学べるように活動しています。

充実したウリマル教室の運営を心がけているかいもあって、受講生のウリマル学習に対する意欲もメキメキと向上しています。さらに相乗効果でしょうか、京都府本部単位で行われる民族楽器サークルなど、ウリマル以外のウリ文化にも大きな興味をしめすようになりました。このように充実したウリマル学習会こそが右京支部一番の自慢です！

◇学習会にも意欲的に参加！

本部で行われている学習会（青年セミナー）へも私たち右京支部のメンバーは積極的に参加しています。私たちが理想とする未来の創造に向けて、祖国の現代史や、私たちの身近な情勢などを学んでいます。最近では、冬期講習会（スノーフェスティバル 2010）での発表に向けて今年 30 年目を迎える光州民衆抗争をテーマにした学習会を開催して本部全体で徹底的に学び、その成果をもとに当日の発表では全国の同志の心に響く構成劇をみなで熱演することができました。今後もしっかりとした学習を行い、活発な活動につなげていきたいと思えます。ぜひ、期待してくださいっ！（って、言っちゃったよ～！笑）

◇充実した交流会！

私たち右京支部は毎回のウリマル学習会後を中心に、積極的に交流会を行っています。支部運営の場が会館を借りているので、いろいろ不自由もありますが、それをモノともせず活発な交流を行っています。ウリマル学習会後の交流会などは参加者のほぼすべてが毎回参加し、そこでは韓青の話、ウリマルの話など様々なことをネタにみんながいろんなことを話します。いつもにぎやかな右京支部の仲の良さの秘訣はこの交流にあり、いつも同胞青年同士で様々なことを話し合える空間を作っています。



このように私たち右京支部は明るく楽しくをモットーにいつも元気に活動を展開しています。これからも若さと勢いで突っ走りながらがんばっていきます。京都にお立ち寄りの際はぜひ私たちの活動を見学しに来てくださいね！

◎ 24期5次中央委員会を開催 ～2010年度運動方針を採択～

3月7日に名古屋市内に韓青の全国幹部が一堂に会する中、24期5次の中央委員会が開催されました。中央委員会では、2009年度活動総括と2010年度活動方針の論議が行なわれ、満場一致で総括・方針を採択しました。

方針では、①若き獅子たちとなろう！②若き獅子たちをつくろう！③若き獅子たちを探そう！の3つの項目からなる「韓青50年・若き獅子たち運動」の提起、採択がなされ、年末の「韓青結成50周年行事」に向けて幹部自らが学習と実践を繰り返すことで組織の大幹を太くしていく決意を共有しました。



◎ これからの行事

○ 4月革命50周年「韓青50年・若き獅子たち運動」宣布式、在日同胞地方集会

開催：4月24日（土）広島 / 4月25日（日）東京、三重、大阪

○ 在日韓国人野遊会（花見）

- ・東京：4月4日（日）東京・隅田川
- ・京都：4月4日（日）東九条・鴨川
- ・神奈川：4月4日（日）横浜・幸ヶ谷公園
- ・大阪：4月4日（日）大阪市内
- ・中部：5月9日（日）桑名・九華公園
- ・兵庫：4月10日（土）武庫川



○ 2010年度全国統一春期ウリマル教室開講式

日時：5月上旬

場所：全国各地の拠点で

※それぞれの行事は各開催地で時間・場所などが異なりますので、詳細は別途お問い合わせください。

PICK UP! 韓青東京本部結成40周年記念祝典



韓青東京本部が今年で結成40周年を迎えました！正義と真理を求めて、祖国とともに民族とともに闘い続けてきた東京本部のさらなる発展を期して、40周年記念祝典が開催されます。40年の歴史を分かち合い、新たな未来を創造していくための出会いの場として、多くの方のご参加を心よりお願い申し上げます。

日時：2010年3月28日（日） 18:00～20:30

場所：ホテルパインヒル上野 B1ホール

参加費：6,000円（会費制）

主催：在日韓国青年同盟 東京本部結成40周年を祝う会

編・集・後・記



冬期講習会に行ってきました。今回は特に印象に残ったのが講演。初日、2日目ともに要点を的確についたすばらしい講演でした。改めて、先輩お二人のすごさを思い知らされた感がありました（笑）さて、私は今回を持って編集長を退くことになりました。編集委員は継続しますが、次号から新体制での発刊になります。今後も変わらずご愛読よろしく申し上げます。（李）